

会長挨拶	中村 允	3	ホームページ制作にあたり	田中 良一	18
理事長挨拶	松平 頼武	4	<b>学園だより</b> 進路状況と学園祭、スポーツ部の活躍		20
平成10年度同窓会創立70周年記念総会	篠 喜三郎	6	チャンネルHONGGO		22
<b>ぼくの本郷 本郷のぼく</b>	平田 満男	8	住所変更・物故者		23
<b>こだわり精神と水中考古学</b>	石原 渉	10	平成10年度事業報告・収支決算		24
<b>読売文学賞受賞</b> 工藤幸雄氏 記事紹介		12	平成11年度事業計画・収支予算		25
関西本郷会に出席して	関塚 正治	13	会費納入者一覧		26
ラグビー部創部から40年	丹波信三郎	14	会則改正について		30
中9回生の集いの会	佐々木岸太郎	15	松平頼明先生胸像建立協力基金の報告		32
文化祭報告	野口 貴洋	16	編集後記		35

## ご挨拶



中13回 中村 允 (同窓会会長)

今年三月高校卒業生三三八名は、新制高校になつてから、第五十一回生で、旧制中学時代の最後が第二十二回生でありますので、同窓会会員の大多数が新制高校の卒業生といつことになり、同窓会の役員もおのずから新制高校出身者にお願ひして、諸事項について運営を行つて居る現状であります。

去年平成十年は同窓会創設七十周年記念の事業として、先代第二代理事長の松平頼明先生の胸像建立計画に際しまして、同窓会員の皆様から多大なご寄付を賜りまして本当に有難うございました。お蔭様で無事落成して初代理事長松平頼明先生及び永井道明先生の胸像と一緒に正面玄関横に設置

致しました。

尚胸像制作に際しまして田中実氏、立入健司氏のご協力と、特に書家山本剛仙氏には「松平頼明先生像」と揮毫をお願い致しました。山本剛仙氏は文部省検定一級で、旧13回生田中実氏は新制作協会会員で、新25回生、立入健司氏は新26回生で石材店を経営され総て同窓生の赤心によつて完成いたしましたことをご報告申し上げます。

名簿の件は名簿編纂委員の方々にお願ひして各卒業回期毎の係に名簿の充実を計るべく努力して居る次第です。

何分にも同窓会費の納入状況が思わしくありませんので、未納の方々は、どうぞ、お忘れありませんようお願い申し上げます。

# ご挨拶

## 松平 頼 武

本郷学園理事長  
本郷中学・高等学校校長



本郷学園同窓会が、昨年、創立70周年を迎えられ、新たな結束と躍進の一步を踏み出されたことは、学園としてもたいへんよろこばしいこと存じます。今後、ますますのご発展をお祈りいたします。

また、この周年行事に当たり、前理事長・校長であり、私の父でもあります故松平頼明の胸像を、同窓会がお作りいただいたことに、心から御礼申し上げます。

創立者松平頼壽伯・永井道明先生の胸像と相並んだ3体の胸像が、正面玄関の前で、学園の様子を見詰めてくれているように感じられ、それらを拝するたびに緊張の日々をすごしています。

父は、昭和19年9月祖父松平頼壽伯の逝去以来、理事長として、昭和33年6月から校長をも兼務して、平成2年2月他界するまで、戦後の日本の学校制度そのものの混乱期に、組合との闘争期に、また、ベビーブームに端を発した生徒たちの不安定・騒擾期に、学園の運営と再建にたいへんな苦勞を重ね、今日の学園を築きあげました。これはまた、その時々各学校関係者各位、並びに同窓会の諸兄のご支援のおかげでもありました。

このように、同窓会の諸兄が常々母校本郷学園を慕う心を、後輩を思ふ心をもつていただいていることは、学園を経営する者にとっても、生徒を指導し教鞭を

とつている者にとつても、たいへん励みになるものであります。また、これは生徒たちにとっては気持ちのよりどころとなるものであります。今後とも、ぜひ母校に対してご支援、ご激励をいただきたいと思います。

近年、長びく不況と少子化の影響で、私学の経営は多難な状況にあります。存続すら危ぶまれる情勢にあります。そのうえ、教育の内容そのものを変革しようとの文部省の動きもあります。このような状況下で、本郷学園では、まず、「我が身を（振り返り）正す」そして時代に先駆けた体制づくりを教職員が一体となって推進すること、すなわち、「内部改革と活性化」に取り組んでいます。本年度の重点施策としては、

質の高い指導体制の整備 教授

力の向上と個別指導の充実

しつけ教育の充実

クラブ・部活動の活性化

情操教育 音楽・演劇等の鑑賞

会、「生きる力、生き方」等の講演会

を考えています。

本校は、創立以来、

「強健・厳正・勤勉」

を校是とし、生徒の学力・体力の向上と人間形成に努め、

「日本国に役立つ、指導者たり得る人材（日本人）を育成する」

ことを教育の目標としてきました。同窓会の先輩諸兄におかれましては、次世代を担う母校の後輩の指導・育成にご理解をいただき、宜しくご指導、ご援助をいただければと思います。

具体的には、

講演会などで生徒に話をしていただく

クラブ・部活動、特に運動部の活躍に参画していただく

校外授業・校外宿泊行事・体験学習等に場の提供をしていただく

中学・高校の受験生に受験、ピアー

ールをしていただく

卒業生の就職に当たり、「ご指導、ご援助をいただく」

外部から見た本郷学園について、

諸事にわたりご指摘、ご激励をいただくことなど、宜しくお願い申し上げます。

未筆ながら、かさねて、同窓会が今後ますます繁栄されますことを心から期待

しています。

# 平成10年度同窓会創立70周年記念総会

日時 平成10年6月27日(土) 午後3時  
場所 本郷学園会議室  
出席者 70名

式次第のつとりに植松副会長(新3回)に依る開会の辞と今総会の司会と進行を勤めまるとの挨拶があつて、中村 允(旧13回)会長より当総会にお集り戴いた出席者に対して、御礼の言葉と本日と同窓会が創立70周年を迎える記念すべき総会になり又記念事業として各位のご寄附に依る松平頼明前理事長の胸像建立も無事行なわれ重ねてお礼申し上げますとの挨拶があつた。

続いて、現学園理事長兼校長の松平頼武氏より同窓会創設70周年への祝辞とこれの記念碑となる松平頼明前理事長の胸像建立へのお礼と、更に本学園への中学校入学説明会が大手学習塾によって6月20日より毎週実施されている、初

OB同窓諸兄の方々にお願い申上げする事にしたいとの申入れとなり了承可決された。

次に、平成10年度事業計画案が篠副会長より説明あり了承可決された。最終議案の平成10年度会計予算案は開塚理事より説明があり、前年繰越と今年度繰越の差838千円は、銀友輸送を住所判明者全員13、160名に送付した事と本年度高校卒業生への記念品に支出した事が要因であるとの説明があつて多数賛成で可決された。

議案が全て審議され、ここで佐々木岸太郎相談役(旧9回)から関西本郷会の宮本幸雄副会長が本総会の為に見えておられるので挨拶願いたいとの発言があつて議長了承の元、宮本副会長より本年3月7日に関西本郷会を開催、会には約50名いるが毎回の参加者は13名前後である、関西周辺に居られる同窓の参加をお願いしたいとの挨拶があつた。

この他に、池田教頭(新14回)より今年の大卒学合格者実績の報告があつて、概要は、東大

日には400名以上の父兄が来校された。又本年度からスポーツクラスを新設し、スポーツで才能のある生徒の推薦入学制度を設けた等の説明があつた。

次に最近亡くなられた百田氏(野球部OB)を始め物故者への黙禱を全員起立で一分間捧げた。

総会の議事に入る前に議長選出の動議と推薦を司会が行ない多数の拍手で現会長が議長に選出された。続いて司会より書記の指名となり田中良一理事(新24回)と寺田正美理事(新24回)が選ばれ、この纏めを篠 喜三郎副会長(新6回)にお願いする事になった。これより本会議の議案審議に入り、まず平成9年度事業報告

京大、東北大、北大と言つた名門国立大に現役で6名、浪人で8名計14名が入つて全体では、国公立で現浪合せて69名が、有名私立では、現浪合計で78名と近年では大勢の合格者を出した。これは中高一貫教育の効果が表れてきたものと見て居ります。又現在一学年5クラス編成の200名体制で教えているとの説明があつた。

これをもつて閉会の挨拶となつたが、中村允議長より任期満了に伴つて会長職辞任の発言が出され、丹波信三郎副会長(新18回)からもう一期お願いしたいとの要請となつて賛成多数で再選された。再選の中村会長から就任決意挨拶の後、植松副会長の司会終了の挨拶で閉会した。このあと、70周年記念パーティー会場のある永井体育館へと移動した。

平成一〇年十一月吉日

高6回 篠 喜三郎 記

が篠副会長から説明され賛成多数で了承された。次に平成9年度会計報告が開塚正治理事(新20回)より説明され、岡田光正監事(旧18回)より去る4月3日、中村会長同席の上、厳正審査の結果問題なしとの報告で賛成多数で可決された。

次にホームページ開設案が田中良一理事によりこれの内容と必要性の説明が語られ本校アザイン科卒の野口貴洋(新35回)氏の協力で本郷同窓会ホームページ見本が紹介され、此れに寄せられる電子メールは、現在30通以上あつて本校伝言板で見れるとの説明があつた。これの制作推進が了承可決された。

次に胸像建立基金状況が秋元幹夫理事(新7回)から去る6月24日(水)の除幕式に出席した事と同月26日現在の募金状況は、2、166千円集まっている、支出に企画制作及びブロンズ制作、土台、プレート代等で3、088千円費した差引約100万円の不足となりましたとの説明があり、此で中村議長からこの不足分は、



# ぼくの本郷、本郷のぼく

第一回（昭和二十年代なかば頃）

高7回 平田満男

川端康成がノーベル賞をもらったときに、「美しい日本の私」という受賞記念のスピーチをしたが、このタイトルの意味が曖昧だといつので、あまり評判がよくなかった。それにくらべると、このエッセイのタイトルはじつにわかりやすい。ぼくは本郷中学と本郷高校と両方の卒業生で、おまけに大学院にいた最後の年に一年だけ本郷高校で英語の教師をしていた。本郷との縁はその七年間でできてしまい、そのあとは大学の教師をなんと四十年ちかくもつづけていて今は仙台の東北大学にいますけれども、本郷が自分をつくってくれた」という思いはつよいし、「その本郷のために、自分も何ほどのことをした」ことを誇りに思っている。

ぼくが本郷に入学したのは昭和二十四年である。アメリカ軍の焼夷弾にやきはらわれた跡は

はつきりしていて、本館の外壁はどこどころ崩れていたり、校舎の窓からみおろすと、空襲で焼けた家の石の塀や土台だけが残っているという風景が、周囲にひろがっていた。木造の体育館とか校庭の畑や果樹園のなかにたつ農具舎とか、そのころの東京ではあまりみかけない建物もあつたが、全体として学校の設備はどのつていたとはいえなかったのではないかと思う。だが、そんなことは、どつでもよかった。教育の場になくってはならないものが、当時の本郷にはまだしっかりと残っていたからだ。それは、自由を大切にすべからずくれた教師、この二つである。

入学しておどろいたのは、土曜と日曜が休みだったことだ。このころようやく日本にも定着しかかっている週休二日制を、五十年もまえ

に先取りしていたのだから、これは大したものである。土曜日を休みにするというのは、学校だけが勉強の場所ではないので、生徒はどこか好きな所で自由に何かをしていてよろしいと、学校がみとめることなのだ。先生たちも教科書に書いてあることを、型どおりに教えるひとのほうが少ない。なかには、「生産とは何か」としてよく教えたがる社会科の先生もいて、中学一年生にはなんのことやらわからなかったが、あとになってマルクスの資本論の初歩だと知れた。これもなかなか大したもの、トルコの首都はアンカラです、なんてなんの役にもたないことを覚えさせるよりも、よほど立派な社会科の教育だったと思う。

ぼくは本を読むことが好きな子供で、『怪人二十面相』やら『鞍馬天狗』やらもしっかり読

んでいたけれども、とにかく本ならなんでもいいので、小学生のくせに尾崎紅葉や太宰治も読んでいた。中学生になり本郷の図書室へいってみて嬉しかったのは、いままで見えたこともないような本が並んでいたことである。「三日あればこれと本をひっぱりだして眺めてから、本格的に読みはじめたのが、『今昔物語集』で、その面白そうなところをあらかじめ読んでしまつてから、『宇治拾遺物語』にとりかかった。もちろん原文のまま読むのだが、古語辞典なんてものがあるとは知らないからたまに注釈をみる程度で、物語の面白さにひかれてひたすら先へ先へと読みすすむのである。

そんな勝手なやりかたでは、きちんとした字力はつかないし受験競争にも勝てはしないといまどきの先生はいつかも知れない。けれども、ぼくは本郷の図書室で手あたりしだいに本を読ませてもらっただけで、国語の参考書とか問題集とかをあけてみたことは一度もないが、大学を受験したころの国語の全国模試の順位はいつ

でも十番台だったし、今でも大学入試センター試験の国語の問題などは、新聞にでているものを一時間かけないで面白半分やってみる、ほとんど毎年全問正解の二百点満点である。ぼくも大学の教師だから分かることなのだが、学力試験などというのは所詮その程度のものでしかない。一生もので身についた古典の教養があれば、造作なくちよいちよいとやれて当然なのである。

本中にはすぐれた国語の先生が何人かいたが、なかでも今村与志雄先生の授業は忘れられない。とにかく、いうことがほかの先生とはだいぶ違つたのである。たとえば教科書に「思い出は走馬燈のよつに巡つて」といつ表現がでてくると、「いついつ、出来合いの文句をつかうのは、きちんと物事を考えていない証拠です」とぼつさり切り捨てるだけで、「走馬燈」の説明なんかは一切してくれない。得意げにリーダー・ス・ダイジェストなんかを読んでいる奴をみかけると、「それは、頭の悪いひとの読むもの

です。教科書をやつていて野口英世をあつかつた戯曲のところにいくと、『ぼくは野口英世が嫌いなので、ここはやりません』。きみたちは何も知らない、が口癖で、毎週かならず漢字書取りのテスト、「鶏」という字を書けない中学生がいるとはね。

数年たつて大学に入学してみると、今村先生は中国文学の助教授になつていて、研究室にいつてみると、「合格者名簿にきみの名前があつたので、待つていたよ」といわれた。先生の著書でいちばん手にいれやすいのは、岩波文庫赤版の今村与志雄訳『唐宋伝奇集』上下二巻だと思つたので、興味のあるひとはお読みになつてみるとよい。後にこういつつくれた仕事をすることになる研究者が、昭和二十五年ころにはただの中学生にただの国語を教えるながら、じつは「言葉にたいする敬意と愛情のもちかた」という、文化の基盤になる大切なことを語りつたえようとしていた。それが、『ぼくの本郷』、本郷中学だったのである。

# こだわり精神と水中考古学

高24回 石原 渉



昭和47年3月、春霞のなか、虎ノ門会館で開かれた卒業式を最後に私は本郷を巣立った。あの

日会場を埋めた卒業生の中で、学帽を被って出席したのは私だけだった。我々が入学した当時、まだ70年安保の余韻が残り、各地で学園紛争が燃っている頃だった。そしてその波は本郷にも押し寄せた。2年生の一部急進派が生徒集会を開いて学帽廃止を決め、学校側に対抗したのである。入学して間もない我々1年生は戸惑いもしたが、多くの友人はこれを歓迎した。確かに今流でいえば、学帽はタサイ存在だったに違いない。ただそれを潔しとしない人間もい

た。それが私だった。

さしたる理由があったわけではない。只、私はその生徒集会のやり口が気に入らなかった。何よりも生徒側には打算があった。学帽廃止を突破口に、さらに学則の大幅緩和を迫る魂胆があったのだ。受験に忙しい3年生は無関心だったし、私は無用な混乱が起こることを懸念した。そこで私の反骨精神にボツと火がついた。こうなったら、何が何でも学帽を被り続けてやる。今にして思えば、なんと幼稚な発想かと悔やまれる。だが、思い込みの激しいB型人間で、しかもへそ曲がりの私は大真面目だった。

以来、日を追って学帽姿の本郷生は激減しつつしか私と同級の二人だけとなった。

25回生からは学帽自体がなくなったので、我々の卒業を最後に本郷生から学帽は消えたは

ずである。だからどうということはないが、私の反骨とこだわり精神は、まさにここからスタートした。

卒業後、私は東海大の海洋学部に進学した。四囲環海の日本には海洋開発にこそ未来があると、また思い込んだ。しかし世の中そうは間屋が下ろさない。大学に入った途端、石油ショックが巻き起こった。4年後の就職時には惨澹たるありさまだった。そこで私は気に添わぬ就職は止めし、新たな目標へと奮進した。明治大の考古学専攻に学士入学したのである。

それにもう一つ思い入れがあった。それが水中考古学である。欧米では、地中海を中心に、水没した古代の港湾都市や沈没船の調査がおこなわれ、大いに実績を挙げている。

水中に沈んだ文化財を調査するには必要なものがある。まずは自らが潜水して調査活動が可能なこと、そして陸上の考古学に精通していることである。まさに海洋学と考古学が合体した学際研究が水中考古学なのである。

だが当時はあまり知られていなかった。考古学者の集まりである日本考古学協会にも、誰一人その専門家はいなかった。私は思った。これぞ私の生きる道だと。

しかし現実には厳しかった。まず指導してくれる人がいなかった。そこで水中考古学に関する事は洋書で独学した。日本考古学に関しては大で学んだが、周囲の目は冷やかだった。かろうじて卒業できたのは、私の唯一の理解者であった恩師のおかげである。だが世の中そう捨てたものではない。昭和55年から文部省の研究プロジェクトが動き出した。

長崎県の鷹島は元寇覆滅の地である。弘安4年(1281)閏7月、元軍14万は4400隻の軍船に分乗して、伊万里湾内に仮泊していた。そこに大暴風雨が吹き荒れた。そして一夜のうちにすべては海の藻屑と消えた。調査はこれら外征軍の痕跡を海底で確認することを目的としていた。そこで急遽、私の出番となったのである。私は明治大考古学研究室の助手補とし

て翌年の夏から現地へ赴き、記録、保存、調査法について指導し、自らも学んだ。手探りの調査だった。以来、現在に至るまでその調査は継続され、一昨年は海底から元寇船の木製碇を発見した。

また国際シンポジウムも名古屋、ソウルと2度経験し、いずれも日本代表として講演をおこなった。現在では郷里にもどって仕事の傍ら若手研究者の指導に携わっている。

まだ我が国には公的な水中考古学の研究機関はない。どこの大学を探しても水中考古学の講座など存在しない。時折、私が近くの大学で講演をする程度である。しかし日本という国は、古より船載により文物を取り入れ、それを文化の礎となしてきた。すべてを海に頼ってきたと言っても過言でない。当時の航海技術や船の構造からすれば、かなりの船が難破し、周辺の海に沈んでいる可能性が高い。これら水没した文化財を正しく調査研究し、保護しなければならぬ。これから開発の波は沿岸部へと向かうだ

ろ。その時、水底の埋蔵文化財に対する事前調査が必要となる。その日のために、一人でも多くの研究者を育成し、調査研究ができる体制を作っておかねばならない。それを思えばまた私の心に、こだわり精神の炎がメラメラと燃え上がるのである。

友人たちとの出会いを与えてくれた本郷には心から感謝している。そして諸先輩の活躍や、後輩諸君の躍進には常々敬服している。本郷は私にとってまさに青春時代の故郷でもある。

故郷は遠きにありて思うものらしい。母校の益々の発展を九州の地から祈念してやまない。



海底遺跡での実測作業(右手:筆者)



# 昭和11年3月卒業同期会

## 中9回生集いの会

昭和11年卒業して現在30名が残って元気で活躍して、毎年2回開催しました。  
 (今年は、5月11日、12月29日に開催)場所は、地下鉄日比谷線八丁堀駅下車エンバイヤビルさくら銀行B1の憩いと語らいの店エコーで開催した。  
 5月は、17名、12月は、体調を崩し3名欠席で、14名の出席、両日共、式次第は、五味重春元会長のあいさつで始まり、飲み放題、食べ放題で、楽しいひとときを過ごした。会食中は、各自の近況と本中学生時代の思い出等、10分間程度の報告をして貰った。時間のたつのも忘れて約4時間経過した。帰路の心配もあって、次回を楽しみに本郷中学校校歌を合唱し解散した。次回11の会は、5月29日12時、場所は、エコーと申し合わせ、またやむなく欠席した者は、写真を送り次回参加して貰うようにした。これは、新しい計画である。



早速 吉成 中村 蒔田 五味 合場 網谷 齋藤 佐々木

伊藤 佐々木夫人 関口 岸川 千葉 有賀 徳田

早速(横浜) 伊藤(東京) 中村(広島県) 千葉(東京) 有村(川崎) 徳田(千葉) 齋藤(東京) 五味(東京) 有賀(東京) 網谷(三重県四日市市) 大塚(東京) 佐々木(川越)

### 集りの会 出席者

(5月11日 エコーにて)

(12月19日 エコーにて)

席順は、網谷英二(三重県四日市市)、中村隆之(広島県)、合場(埼玉県)、有村(川崎)、早速(横浜市)、伊藤、有賀、大塚、五味、岸、齋藤、田口、千葉、吉成(以下東京)、時田(茨城)、川口(逗子)、佐々木(川越)

文責 佐々木岸太郎

同期の輪

# ラグビー部創部から40年

事務局 丹波 信三郎 (高18回)

1958年7月3日、本郷高校ラグビー部が創部されました。同窓会の70周年記念式典に併せて、昨年6月27日にラグビー部40周年記念総会を開催しましたところ、80名程のOBとご家族に参集戴き、100名以上の盛会となりました。

創部された古賀先生をお招きして、昔と変わらぬ懐かしいグラウンドで楽しい一時を過ごせたことは、ラグークラブの一員であることに誇りを感じた次第です。

全国大会(花園)6回出場、関東大会25回出場の輝かしい実績を有する本郷ラグビー部ですが、ここ4~5年は部員不足に泣かされてきました。しかし、昨年度よりスポーツ推薦による学級が1クラス編成されることになり、現在の部員数は、3年生3名・2年生13名・新入生15名程となり、復活の兆しが見えてきております。

来年度は、40名を超える大所帯となることが予想され、勝負の年といえそうです。

大浦先生という立派な指導者のもと、学生達が花園を目指して練習に励んでおります。ご声援を賜われれば幸甚です。



# 文化祭報告

(平成10年9月26、27日)

高34回 野口貴洋

私はデザイン科出身で、今年の3月で古巣がなくなると聞いたのが一昨年の暮れだったと思う。昨年の年初、ぼつかりと暇ができたので、ふと最後に1つ同窓会をやろうと思いい立ち、個人でホームページを開いた。結果的には私自身が無夜仕事の連続で、とても参加を呼びかけられる状況になかったため、企画は幻となった。せつかく何人かの先輩方から、賛同のメールをいただいたし、わが恩師、唐沢政道先生との約束を守れなかったことがすつと心にひっかかってもいた。その思いも忘却のかなたへ過ぎよつとすると、私のホームページを偶然見つけてくれた田中良一(第24回卒)先輩より、本郷学園同窓会のお誘いをいただいた。

今年の夏ごろ、同窓会として文化祭に何か出展しようといつことになった。展示するネタに

関してはいにしえの時代をほうふつとさせる戦前の写真や新聞記事、卒業アルバム、卒業記念の文鎮、在学中の行事案内、そして銀友のバツクナンバーが集まった。ここまで集まったのが開催直前というスリリングな状況ではあったが、なんとか形にはなった。

また、初めての試みとしてブースにパソコンを持ち込み、この10月よりスタートした同窓会ホームページのデモ環境セッティングに関する苦労もあった。こちらは、パソコン2台を提供した平野先輩(新制26回卒)とそのスタッフに感謝である。文化祭当日、家用車で搬入・搬出までを引き受けてくださった。

同窓会が文化祭に出展するのは、過去にあつたのかもしれないが、近年では初めてのことで、経験している者がいないので試行錯誤の中で進

められた。こういふときは行動力のある先輩に仕切ってもらつのが一番だ。

準備は前日の夜に行つた。私が遅刻している間に、先に来ていた先輩方がおおかた準備を済ませていた。4階の一番奥、1-1の教室を使い、机や椅子の移動、パネルの搬入、白い布や模造紙をつかつてポロ隠しをすませ、そこに展示品を並べたり、画鋏で止めていく。何しろ会社が終わつたあとと直行して、空腹の中で作業していくわけだから、中高生ならともかく、中高年に達した我々の体力もすぐに果てる。けだるさの中で、「明日は大丈夫だろうか」という思いがよぎる。そして夜が明けた。

私が現役の高校生だった頃もそうだったが、本郷の文化祭は雨のふりやすいこの時期に行つたのをちょっと呪つたものだ。9月26日といえは、

確か台風の特異日だったと思う。そして今年もやつぱり雨だった。

10時スタートに合わせて前日やり残した準備を続けていく。準備が終わるかどうかしないうちに、さつそく同窓生の先輩方がかけつけてくれた。何かきつかけが欲しかったのだらうが、ブースの中に設けた休憩コーナーでは、いつも誰かが会話を交わしていた。コーヒーと紅茶のサービスは関塚先輩(新制20回卒)が積極的に動いてくれた。おかげでブースの雰囲気も和やかになった気がする。

飲み物無料とききつけて、2日目には父兄のお母様方も時々集まるようになった。巣鴨駅前の西友で調達した紙コップ90個の残りも少なくなつた頃に、なんとか2日間の日程を終えることができた。

私も2日目は精神的余裕ができたのか、ふらりとたちよつてくる女子高生たちに積極的にお誘いをかけた(注:ナンパじゃありません)。中村会長(旧制13回卒)からは、「女の子には随

分とやさしいんだね」などとからかわれてしまったが、役得でもしておこう。

さて2日間を通して、ちょっと困つたのが昼食のこと。諸先輩からお預かりした貴重な展示品が多数置いてあるだけなので、紛失しては大変だ。そこでわずかに数人の中のローテーションで食事の時間をずらすことになるが、校内で出店している食べものは軒並み行列ができて買つまでに音を上けてしまう。2日目は、どしゃぶりの雨の中、珍満へ向かい、変わらぬ味にほつとしたが、その帰り道、雨はやんでいた。

生徒の様子もすいぶん変わったものだ。気に入つた女の子たちと携帯の番号を教えあつている光景を何度か見かけた。その後、彼らがたどる道を想像しつ、また来年も何らかの形で参加してみたいと思つた。



# ホームページ制作にあたり

高24回 田中良一

半導体集積回路の設計をしていた関係からコンピュータにふれる機会が多くありました。また、世の中の流れが、急速にLSI化が進み、大型コンピュータからパソコンへと変わる時代に直面しました。大学時代（昭和47年から）は、まだ、大型コンピュータ、会社に入ってから（昭和55年頃になると）ミニコンをさわわり、昭和61年頃にPC9801VMが最初の私の業務用パソコンでした。

仕事は、デジタル時計、60000系Z80系CPUのLSI設計をしていました。仕事がハードよりでしたので、プログラムはあまり勉強していません。現在は、もっぱら趣味の領域を越えた内容で、中古部品、ジャンク部品を集めて自作パソコンの制作及びネットワークの構築（配線工事等のインフラ整備）、ホームページ

制作を手掛けています。OSは、WINDOWS95、98、NT、UNIXも何とか利用できるようになりました。時間ができたら（土、日等）お父さんお母さんのパソコン教室をするつもりで、現在勉強中です。

現在、母校大学の恩師のCAI物理教育を少しお手伝いしています。もう少しVB、C言語をちゃんと覚えていけばと苦労しています。もっぱら文書入力とデザイン及び企画構成を手伝っています。将来は、高校CAI物理にもと考えています。

なんと20年ぶりに力学、電磁学、流体力学等の参考書を開いています。高校3年時の数Bの微分方程式を解くのが楽しかった時を思い出します。物理は、ほとんど数学です。（289年前の高3数学は、鈴木政一先生でした）

最近の理工系大学でOSをUNIXからPCUNIXに変える動きがあるようです。これもパソコンCPU、周辺機器の高機能化が実現されたからです。

理工系学生の常識は、C言語、UNIX、OSができることによつてです。

現在の仕事は、技術者採用として全国の国公立大の就職指導の先生方へあいさつ回り、学生連への企業セミナーの企画運営を担当しています。他に社内教育の企画運営とお堅い内容になっています。最近、明治大学理工学部情報科学科の先生に進められFTIC研究会に参加しています。（コンピュータ故障診断系の研究者達の研究会です。大学の先生と院生、学部生、企業は、テスト系の技術者です。）私にとつて

残念なことは、設計を離れ、現在LSI設計の主流であるHDL、論理合成、自動配置配線ソフトを利用した設計が自分で出来ないことです。

昭和40年から60年は、LSI設計は、体力と時間、経験の時代でした。

現在は、頭脳で勝負できる時代だと思えます。

私事になってしまいました。

平成10年の同窓会70周年記念行事の一貫として、

記念式典

ホームページ制作

文化祭参加

名簿データ作成

私は、の制作を担当、半年がかりで制作し、何とか文化祭までに完成させることができました。平成11年5月6日現在のアクセス数は1000件です。きこえないデザインですが少しず

本郷学園同窓会ホームページ

<http://www3.tky3web.ne.jp/hongo>

つ更新していきます。また、本郷同窓会の事業を全会員に理解して頂き、少しでも多くの会員から会費を納めて頂き、本郷学園に何らかの物を毎年提供できればと考えています。

ホームページは、みなさんからの投稿から成り立ちますので、是非原稿をお寄せ下さい。お願いします。

同窓会誌（銀友及び電子銀友）に掲載する原稿を募集しています。書き出しは、本郷学園在学当時の思い出と現在仕事の紹介です。原稿は、500字以上2000字以内で願います。顔写真も添付下さい。ホームページ内のメールは全て、田中（新制24回卒）が受け取るようになっていきます。

伝言板の方へは、本人の了解を確かめてからメールアドレスを連絡します。

# 学園だより

## 1998年生徒進路状況と 学園祭およびスポーツ部の活躍



### 本郷学園の教育

中学生の場合、特に力を注いでいるのが生徒一人ひとりにしっかりとれた思考能力を持たせることです。さらに日本の歴史・文化・伝統をよく理解し、世界的視野を持つことが望まれます。そのため日本の伝統に触れ、日本人としての自信と誇りを持つための確かな判断力と適応力を身につけるべき教育をすすめています。

高校の場合は、まずベースとなる知識の習得としての授業があり、そのうえで社会のルールやつきあいなどを学んで欲しい。なかでも「ありがとごさいます」「ごめんなさい」「どうぞ」など人に対して感謝の気持ちや思いやりの心を育てる躾の教育を行っている。



一九九九年の進路状況は次の如くである  
指定校推薦制大学は、青山学院大(理工)  
学習院大(経済・経営・法・理) 神奈川大  
(理工) 中央大(商・法) 東京経済大(経済・経営) 東京理科大学(理工・経営) 日本大  
(法・理工・生産工) 明治大(理工) 早稲田  
大(理工・商) 慶応(理工) 上智(理工)

### 国立大学合格者五十三名

北海道大・千葉大・埼玉大・電気通信大・東京  
医科歯科大・東京都立大・富山大・東北大  
その他

### 私立大学合格者六十三名

青山学院大・慶応大・芝浦工業大・中央大・東  
京電気大・東京理科大学・日本大・法政大・明治  
大・早稲田大・独協大・東京農大・千葉工業  
大・その他  
なお合格者が重複しているが、その他多数と  
なっている。

### 特報

一九九八年の大学合格者は国公立大では、東  
大(2) 千葉大(4) 東工大(2) その  
他 東北大(1) 都立大等であり、私立大で  
は早稲田大(22) 慶応大(10) 上智大(9)  
その他明治大 中央大 等多数になっている。  
今後増加する可能性は大きい。

### 98学園祭

文化祭は九月二十六日(土) 二十七日(日)、  
体育祭は中学・高校共に十月十日(土) に開か  
れた。テーマは「俺たち無我夢中」という生徒  
からの公募によるキャッチフレーズで、高校テ  
ニス部招待試合、中学卓球部 サッカー部招待  
試合等、本校の生徒が多数応援し文化祭の雰囲  
気を大いに盛り上げました。又、本館を中心に  
様々な参加団体の催物を見られた御父兄の方々の  
笑顔が印象的でした。今回で三回目になる入  
試相談コーナーや、初めてブースを出した同窓  
会コーナーもお茶のサービス等もあり、昔を懐

かしむ同窓生の姿も見られ、仲々好評のよう  
でした。



### スポーツ関係

#### 高校

剣道部：第9回立教杯剣道大会ベスト8

インターハイ都選ベスト16

第43回若木祭大会ベスト8

#### 中学

サッカー部：東京都春季大会・豊島区第2位

(都大会出場)

バトミントン部：豊島区春季大会、団体戦1位

個人戦3位

シングルス5位 ダブルス1  
位・2位 ブロック大会出場

柔道部：春季大会・都大会出場

水泳部：東京都選手権400メートルメドレーリ  
レ

2位 400メートルリレー3位 総合順位

3位

日本高校選手権 100メートル1位 20

0メートル2位 総合9位

陸上部：新人戦 100メートル1位 400メー  
トル2位

日本国民体育大会 100メートル1位

ジュニアオリンピック 110メートルハ  
ドル7位

インターハイ予選支部予選大会 総合1位

インターハイ予選支部予選大会 総合1位

インターハイ予選支部予選大会 総合1位

インターハイ予選支部予選大会 総合1位

# Channel HONGO

## 本郷をもっと知るために

情報・発信

本郷の先輩・OBたちがどれほど現在の高校・中学について知っているでしょうか。クラス分けなどを中心にしてお答えします。

### 〔高校篇〕 高校三年生の新クラス分け

（初の内・外合体）

今年の三年生は、今までに例を見ない形でのクラス分けを行いました。それは、中学から入学した者（内進生）と、高校から入学した者（外進生）が混ざり合い、一つのクラスの中で席を並べるといふものです。昨年までのクラス分けでは、中学から入学した者と高校から入学した者が一つの教室で一緒に授業を受けることはなかったのです。（選択授業以外）つまりは、別々にコースごとのクラス分けを行っていたわけです。

では、なぜ、このようなクラス分けを行ったのかといえますと、大まかに言えば、中学から入学した生徒たちの良い面と、高校から入学した生徒たちの良い面を重ね合わせることにより、生徒一人一人がより大きな飛躍を遂げてくれるだろつとの期待からなのです。そして、生徒たちは、お互いを意識し合い、必ずや良い結果を生みだしてくれるであろうと思われまふ。

最終的な結果は、大学の入試結果となりますが、我々の予想をはるかに超えた良い結果を出してくれ

るものと学年担当教員を始め、教員一同期待に胸を膨らませております。

### 〔中学篇〕

クラス分けについてお答えします。

中学1・2年ではいわゆる均等分けを行っており、中3になりますと数学は基礎、応用の習熟度別による同時限授業およびクラス編成を行います。

英語においても中3では高校英文法の授業が先取りされ、それを各クラスとも基礎、応用の二分割少人数制で行い基礎学力の徹底や実力の向上をはかります。

高1では習熟度による数学と応用クラスを設け、高2からは文系、理系のコース別クラス編成になります。

### 学生帽の着帽の自由化について

平成十年度より今まで中学生の学生帽の着帽が、義務づけられておりましたが、現在の学生の感覚や嗜好などの点から考え合わせ、生活指導部会での討議を重ねた結果、学生帽の着帽につきましては、生徒各自の自由意志に任されることになりました。生徒にとりましては、日常注意される事がなくなったことよって概ね好評のようです。

## 平成10年度事業報告

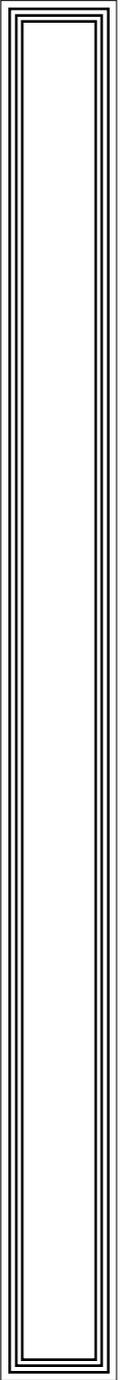
自・平成10年4月1日 至・平成11年3月31日

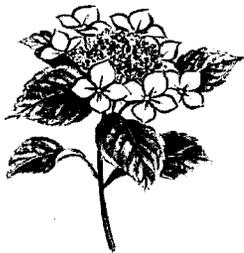
平成十年	
四月八日	本郷高校生学式（会長・副会長出席）
四月二十四日	理事会・懇親会（本校会議室・みやこ）
五月十一日	銀友印刷完了発送
五月二十三日	会長・副会長会議（本校会議室）
六月二十四日	松平頼明先生胸像除幕式
六月二十七日	創立70周年記念定期総会・懇親会本校会議室・永井体育館
七月二十五日	会長・副会長会議（本校会議室）
八月二十日	会長・副会長会議（本校会議室）
九月十日	理事会・懇親会（本校会議室・みやこ）
九月二十七日	文化祭同窓会ブース出展
十月一日	同窓会ホームページ開設
十月十日	本校体育祭
十月二十四日	会長・副会長会議（本校会議室）
十一月十二日	会長・副会長会議（本校会議室）
十一月二十六日	会長・副会長会議忘年会（みやこ）
平成十一年	
一月二十三日	理事会・懇親会（本校会議室・みやこ）
二月二十七日	会長・副会長会議（本校校長室）
三月一日	高校卒業式会長・副会長出席
三月二十日	関西本郷会・弥生会館 会長出席
三月二十七日	会長・副会長会議（本校会議室）

## 平成11年度事業計画

自・平成11年4月1日 至・平成12年3月31日

平成十一年	
四月六日	本郷中・高入学式
四月二十四日	理事会・懇親会（本校会議室・みやこ）
五月中旬	銀友第28号発送
五月二十日	会長・副会長会議
六月二十六日	定期総会・懇親会（本校会議室）
七月二十四日	会長・副会長会議
八月二十八日	会長・副会長会議
九月十五日	理事会・懇親会（本校会議室）
九月二十五日	学園祭・文化祭（同窓会ブース出展）
二十六日	
十月一日	本郷中・高合同体育祭
十月二十三日	会長・副会長会議
十一月中旬	関西本郷会主催高松ツアー
十一月二十五日	会長・副会長会議忘年会
平成十二年	
一月二十日	理事会・懇親会
二月二十日	会長・副会長会議
三月一日	高校卒業式
三月二十五日	会長・副会長会議





## 会則の改正について

今回の会則の改正を提案するのは同窓会の現状を打開して、より多くの会員を糾合し、総会、文化祭等会員相互の親睦の場を、より拡大充実するためには、「どうすればよいか」に始まったもので、会務をあくかかるとこれを補佐する副会長及び会の事業を担当する理事の間で検討をかさねたような改正の骨子を得て成文化化したものです。

- 一、組織をシンプルにして動き易いようにするため二つある審議機関の評議員会と理事会を一本化一つにする。
- 二、一本化する組織を理事会として総会に次ぐ決議機関及び執行機関に位置づける。
- 三、従来会長の会務総括を補佐するため慣行してきた会長・副会長会議を事業の担務理事を含めて執行機関に位置づけ成文化する。
- 四、総会に次ぐ理事会の理事は卒業各会期から選出することとし従来の評議委員会の役割であった会員の総意が少しでも反映出来るよう期待されるものとした。

## 本郷同窓会会則改正案

### 第一章 名称及び位置

#### 《名称》

第一条 本会は本郷学園同窓会と称す。

#### 《位置》

第二条 本会は事務所を東京都豊島区駒込4丁目十一番一号本郷学園内に置く。

### 第二章 目的

#### 《目的》

第三条 本会は会員相互の親睦を厚くし母校の発展を図るを以て目的とする。

#### 《事業》

第四条 本会は前条の目的を達するために次の事業を行う。

会員の親睦会の開催、会誌の発行、母校後援事業、名簿の調整と発行、ホームページの運営、慶弔等。

### 第三章 組織・役員

#### 《会員》

第五条 本会は次の会員を以て組織する。

会員は、母校卒業者及び卒業生待遇者並びに中途退学者で会員の紹介により理事会の承認を得た者とする。

#### 《役員》

第六条 本会は次の役員を置く。

名誉会長 1名、顧問 若干名、相談役 若干名、

会長 1名、副会長 若干名、

理事（各回期一乃至三名）監事 二名

#### 《役員選出》

第七条 前条の役員は次の方法により定める。

名誉会長は本郷学園理事長を推薦する。

顧問は本郷学園名誉校長及び校長並びに会長経験者を推薦する。

相談役は副会長・理事・監事の経験者で会長の委嘱により推薦する。

会長は理事会において理事の互選により選出する。

副会長は理事中より会長の委嘱によって定める。

理事は、各回期毎に選出し総会の承認を得るものとする。但し選出のない回期からの理事は一名を会長が指名委嘱し総会の承認を得るものとする。

監事は、会員中より選出する。

会長・理事・監事は選出後の最初の総会の承認を得るものとする。

#### 《役員の職務》

第八条 役員は次の職務を行う。

会長は会を代表して会務を総括執行する。副会長は会長を補佐し会長事故あるときは副会長間において定める順位により会長事務を代行する。

理事は、理事会に出席して、本会の運営に参画する。

監事は会計を監査する。顧問・相談役は会長の要請ある時は随時出席して意見を述べらる。

#### 《役員任期》

第九条 役員任期は三年とする。

### 第四章 会議

#### 《会議》

第十条 本会の行う会議は、総会、理事会、会長副会長会議とする。

会議の議長は、会長が指名する。

#### 《総会》

第十一条 総会は本会の最高議決機関とする。

定期総会は毎年一回原則として母校で行い会務報告、役員承認、会則改正その他本会に関する重要事項を議決し且親睦会を兼ねるものとする。

会長は理事会の議決により臨時に総会を召集することができる。

#### 《理事会》

第十二条 理事会は理事を以て構成し理事の過半数の請求、もしくは会長の要請により開催し本会に関する一般事項を審議する。

#### 《会長副会長会議》

第十三条 会長副会長会議は、副会長及び本会の事業を担当する理事で構成し、会長の召集によって開催、本会の運営にあたる。

### 第五章 事業及び議決

#### 《事業の遂行》

第十四条 理事は担務を定めて会誌の発行、企画、会計、庶務その他の事業を遂行する。

第十五条 理事会において立案された本会の事業は総会の議決を経るものとする。但し、急を要する場合は理事会において処理するものとし、次回の総会において承認を得るものとする。

#### 《議決》

第十六条 会員は総会において一様に発言権・議決権を有し、総会、理事会の議決は出席者の過半数をもって決する。

可否同数の場合は議長が決める。

### 第六章 会計

#### 《事業年度》

第十七条 本会の会計年度は毎年四月一日に始まり、翌三月三十一日に終わる。

#### 《会計》

第十八条 本会の経費及び事業資金は入会金及び普通会員の年会費並びに寄付金その他を以てこれに充当する。

一旦納入した金品は一切返還しない。

第十九条 本会の収支決算は毎年総会に於いてこれを報告、承認を得るものとする。

第二十条 会員は年会費を一口金貳千円として一口以上を毎年納付するものとする。

卒業時の入会金は参千円とする。

### 第七章

第二十一条 本会則は総会において出席会員の三分の二以上の賛成がなければこれを改正することを得ず。

#### 付則

本会則は平成 年 月 日より施行する。

以上

**松平 明先生胸像  
建立協力基金の報告**

松平頼明先生胸像の建立にとまない  
皆様に協力をお願い致しましたところ  
多くの方々よりご賛同をいただきました  
た。御陰様をもちまして無事胸像が建  
立され、平成10年6月24日除幕式が滞  
りなく行なわれました。銀友誌面をお  
かりしまして、お礼申し上げます。

本郷学園同窓会

会長 中村 允



## 編集後記

一年が経つことの早いこと。銀友28号発行迄まだまだ時間が  
あると思っていたら……………。

前任者の北村廣三郎氏（旧18回）が大変ご苦労されたことだ  
ろつと思いを馳せつつ、今ホットー息ついたところ。

尚、皆様からのご投稿をお待ちしております。同窓会銀友編  
集委員迄。

編集委員一同